

令和7年度 学校評価報告書(松山市教育委員会統一様式)

学校番号	
小	146

【評定】 4:とても思う(あてはまる) 3:やや思う(あてはまる)
2:あまり思わない(あてはまらない) 1:全く思わない(あてはまらない)

松山市立 浅海小 学校

【総合判定】 A:肯定率の平均が90%以上
B:肯定率の平均が60%以上90%未満
C:肯定率の平均が60%未満

学校長 長井 奈津子

※ 肯定率とは、評定(%)の評定4と評定3の合計値です。

評価領域	評価指標	総合判定	対象	肯定率	評定(%)				評定平均	○成果 もしくは ◆改善策
					4	3	2	1		
教育課程・学習指導	学校は、松山の授業モデルをもとに、一人一人が分かる喜び、共に学ぶ喜びを実感できる授業を行っている。	A	教職員	100	29	71	0	0	3.3	○松山の授業モデルを全校で確認することで、授業の質を高めることができた。 ◆課題との出会わせ方や振り返りを大切にする。
			学校関係者	100	62	38	0	0	3.6	
	学校は、教科等の指導においてアナログとデジタルそれぞれのよさを適切に生かした授業改善に取り組んでいる。	A	教職員	100	29	71	0	0	3.3	○ICT機器を積極的に活用することで、学習効果があがった。 ◆デジタルとアナログそれぞれのよさを生かした活用を心掛ける。
			学校関係者	100	87	13	0	0	3.9	
	学校は、児童生徒の学力や体力の状況を把握し、それらの充実に向け計画的に指導を行っている。	A	教職員	86	0	86	14	0	2.9	○子どもたち同士で学習を進める場面を取り入れ、自立した学習者の育成を図れた。 ◆学力定着のために、補助教材や学習アシスタントを効果的に活用する。
			学校関係者	100	87	13	0	0	3.9	
	学校は、地域に根ざした教育を行い、郷土を大切に思う児童生徒の育成に努めている。	A	教職員	100	100	0	0	0	4.0	○海の学習や獅子舞の伝統を引き継ぐ活動を行うことで、浅海愛を育むことができた。 ◆地域の協力を得て、ふるさと浅海をより深く知ることのできる活動を行う。
			学校関係者	100	100	0	0	0	4.0	
人権・同和教育・生徒指導	学校は、人権・同和教育の視点に立ち、いじめや差別を許さない意識や態度を育てている。	A	教職員	100	86	14	0	0	3.9	○少人数による温かな人間関係が形成され、仲よく活動することができている。 ◆教職員の人権感覚を育成し、いじめの早期発見・早期解決を図る。
			学校関係者	100	87	13	0	0	3.9	
	学校は、「学校のきまり」など生徒指導体制の見直しを行い、児童生徒の実態に応じた適切な指導を行っている。	A	教職員	100	29	71	0	0	3.3	○学校全体で、一貫した指導や対応をすることができた。 ◆報告・相談・連絡を基盤とした体制の強化と教職員間の共通理解を今後も続ける。
			学校関係者	100	75	25	0	0	3.8	
キャリア教育	学校は、将来に夢をもち、自分の進路や生き方について考える児童生徒を育てている。	A	教職員	86	29	57	14	0	3.2	○地域の方の働く姿を学ぶことで、将来についてのイメージを持たせることができた。 ◆キャリア・パスポートを有効活用できるよう研究を進めていく。
			学校関係者	100	75	25	0	0	3.8	
安全管理	学校は、児童生徒に交通安全やけが等の防止について適切な指導を行うとともに、安全な環境づくりに努めている。	A	教職員	100	86	14	0	0	3.9	○命の大切さや防災の指導、安全な環境整備により、安心して学校生活を送れている。 ◆さらに命の大切さや安全・防災が身近な問題として取り組めるよう改善していく。
			学校関係者	100	100	0	0	0	4.0	
保健管理	学校は、家庭と連携して個々の健康状態を確認するとともに、環境衛生の維持・改善を行い、児童生徒の健康保持・増進に努めている。	A	教職員	100	71	29	0	0	3.7	○生活習慣のチェックを行うことで、児童の健康への意識を高めることができた。 ◆基本的生活習慣の確立のため、家庭と連携して取り組んでいく。
			学校関係者	100	75	25	0	0	3.8	
	学校は、換気や手指衛生などの基本的な感染症対策を行っている。	A	教職員	86	72	14	14	0	3.6	○感染症対策の共通理解と児童への指導により、健康保持に努めることができた。 ◆今後も自分と周りの人を身を守るためにどう行動するのか指導を行っている。
			学校関係者	100	87	13	0	0	3.9	
特別支援教育	学校は、特別支援教育の視点をもって取り組み、個に応じた配慮や指導を適切に行っている。	A	教職員	100	29	71	0	0	3.3	○保護者と連携を密にし、個に応じた教育的支援の充実を進めることができた。 ◆今後も、保護者・児童と密に連絡をとり、家庭と共通理解をしながら支援を行う。
			学校関係者	100	75	25	0	0	3.8	
組織運営	学校は、管理職や学年主任等を中心とした組織的な対応を行っている。	A	教職員	100	71	29	0	0	3.7	○教職員共通理解のもと、保護者と協力して子どもへの支援を行うことができた。 ◆教師間の支持的な雰囲気や基盤に、今後も誰もが共通した対応ができるようにする。
			学校関係者	100	87	13	0	0	3.9	
研修	学校は、子どもたち一人一人が分かる授業づくりや、様々な教育課題への対応に向けて、積極的に研修に取り組んでいる。	A	教職員	100	43	57	0	0	3.4	○授業展開の工夫や個に応じた指導により、一人一人が分かる授業に努められた。 ◆複式学級での授業展開について研修を深め、授業の質を高める。
			学校関係者	100	87	13	0	0	3.9	
保護者・地域との連携・情報提供	学校は、教育活動の充実に向けて地域や保護者と連携・協力している。	A	教職員	100	86	14	0	0	3.9	○運動会等の行事において地域や保護者と連携することで、充実した活動ができた。 ◆今後も地域・保護者と連携し、共に子どもを育てる機運を高める。
			学校関係者	100	87	13	0	0	3.9	
	学校は、学校・学年だよりやホームページ、配信システム等により、積極的に情報を発信している。	A	教職員	100	71	29	0	0	3.7	○HPや学級だより等で、日々、学校から発信を行い、情報を発信することができた。 ◆今後も学校の教育活動への理解が深まるような情報発信に努める。
			学校関係者	100	75	25	0	0	3.8	
教育環境	学校は、言語活動の充実及び展掲示の工夫等の環境整備に努めている。	A	教職員	100	57	43	0	0	3.6	○授業に話し合いの場を積極的に設定したり、展掲示を充実させたりすることができた。 ◆今後も、様々な場面で児童の表現力の育成と言語活動の充実に取り組んでいきたい。
			学校関係者	100	75	25	0	0	3.8	
幼保小中連携	学校は、小1プロブレムや中1ギャップの解消につなげるために関係園・校で連携し、児童生徒の学校生活に対する不安感の軽減を図っている。	A	教職員	100	43	57	0	0	3.4	○保育園、中学校と情報共有をしたり共に活動したりすることで、連携を図ることができた。 ◆年間を通じた連携について考え、継続性と内容の充実を図ってきたい。
			学校関係者	100	75	25	0	0	3.8	
	学校は、関係園・校で連携して児童生徒への理解を促進するとともに、系統性を重視した学習指導を行っている。	A	教職員	100	57	43	0	0	3.6	○交流する機会を多く持つことで、入学前の段階から子どもの理解を深めることができた。 ◆幼・保・小の連携を深め、互いの教育活動を理解することができるようにする。
			学校関係者	100	62	38	0	0	3.6	